

2020年2月26日

2019年度聖路加国際大学大学院看護学研究科課題研究

急性・重症患者看護専門看護師による

終末期ケアに関連する Moral distress を抱えた看護師への支援の実態

Assistance Provided by Certified Nurse Specialist in Critical Care Nursing
to Nurses with Moral Distress Related to Terminal Care

17MN306

二瓶 啓徳

要旨

《背景》 クリティカルケア領域の看護師は、強い Moral distress を感じており、看護師の離職や看護の質の低下に繋がっている。Moral distress を抱えた看護師への支援を行うものとして急性・重症患者看護専門看護師(certified nurse specialist in critical care nursing 以下 CCNS)が役割を担っていると考えるが、現状では、CCNS による支援の実態は、明らかにされていない。

《目的》 終末期ケアに関連する Moral distress を抱えた看護師に対する CCNS による支援の実態を明らかにする。

《方法》 関連学会で、倫理に関する報告、発表を行っている倫理に関する活動を報告している CCNS の中から、研究協力が得られる CCNS を対象とした。終末期ケアに関連する Moral distress を感じている看護師へ CCNS の支援の実態、CCNS の思考と実践の過程について、半構造的面接を行い、データ収集を行った。その後、データを質的記述的に分析した。

《結果》 5名の CCNS に対してインタビューを実施した。分析の結果、187 のコードから 56 のサブカテゴリ、16 のカテゴリが抽出された。まず、CCNS は、基盤となる【看護師と倫理的な問題を話しやすい関係性の構築】を行っていた。その後、【多様な価値観を背景とした Moral distress を抱えた看護師がいることを把握する】、【看護師が力量不足と感じる医師に対して否定的な感情を持つこと把握する】といった形で Moral distress を抱える看護師に気づき、【看護師が現状をアセスメントできていないと判断する】、【CCNS 自身で患者に関する情報を収集しアセスメントする】、【看護師の Moral distress に対する支援の方向性を検討する】というアセスメントを行い、それを基に【Moral distress を抱えた看護師を承認し支持的に関わる】、【看護師の意思決定支援をサポートする】、【看護師が治療やケアに肯定的に関われるように支援する】、【患者の意向に沿った意思決定支援を行う】【看護師・医師の価値観や治療方針をチームで共有する機会を作る】、【医師と看護師との協働を促進する】といった実践を行い、【看護師とリフレクションをする】、【看護師が Moral distress を乗り越えたと感じる】ことで省察・評価を行っていた。さらに、【CCNS 自身が Moral distress を感じる】、【対応が困難な事象や課題に対峙する】という課題が抽出された。

《結論》 CCNS は、自身の CCNS としてのコンピテンシーを用い、役割の実践を行うことで、看護師の Moral distress に対して支援を行っていた。また、Moral distress の発生要因は、外的な障壁を含む多岐に渡る要因から構成されており、Moral distress を無くすことは困難であると考えられる。よって、Moral distress を感じる看護師に対する CCNS による支援の充実や組織的な介入を含めた支援体制の充実を図ることが重要である。